

ここにもあそこにも、歩いて行く道がある

序

宇宙には直線というものは
存在しません、

我々の居る空間は

方眼紙の様に

格子に

仕切られてはいません

ですが

宇宙には透明な

中心というものが存在し、

その中心点は

どこから見ても

だれが見ても

すべての出来事と

すべてのものの

中心を

司っています

詩集 しあわせのきじゅん

あしたはあめ……………	6
あまなつ……………	9
あり……………	12
おひさま……………	14
かえる……………	17
かぜ……………	20
かぞく……………	22

かほちゃ	25
かわいそうないきもの	27
しあわせのきじゆん	30
とんぼ	32
はだし	35
ばった	38
ひかり	40
ほんだな	42
みらい	44

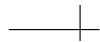
あしたはあめ

あしたは あめがふるから
みずはあげなくていいよ

ううん……

わたしは

あした、あさごはんを
たべるから



きょうはばんごはんを

たべなくても いいだろうか

いいえ、そんなことは ありません

くさだつてきだつて

わたしとおなじ いきものだから

ごはんをたべなくては

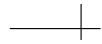
しんでしまう

だから あしたはあめが



ふるかもしれませんが
くさにもきにも
たくさんみずを あげます

二〇〇八年五月二十三日



あまなつ

しっかりと えだにしがみつぎ
かぜがふいても あめがふっても

そのてをけっして はなさない

よくひにさらされて

かおはひやけで



まつくろで しみだらけ

みんなは いやだといって
かんじゆくのか あまなつを
てにしない

でも

かわをむいてみると
かんじゆくのか あまなつは



かおりがたかくて あまみがつよく
みかけがいいとか わるいとか

それがいったいなんなのか

わたしには

どうしてもわかりません

二〇〇八年五月二十四日

あり

ありはくろぐろ　くろびかり

うるしをなんども　ぬりかさね

しよくにんくびを　たてにふる

じまんのつやは　むらもない

はたらきものの　ありはみな

うるしをぬって　みがきあげ



みなでならばば　くろびかり

びかぴかぴか　と　くろびかり

おひさままけずに　ひかっている

ありにまけずに　ひかっている

二〇〇八年五月二十三日

おひさま

おひさまは はたらきもの

にちようびも かんけいなく

おそらで

おおきなせかいを

てらしている



よるだつて

ちきゅうのうらがわで

おしごとを している

おひさまは えらいねえ

なつやすみも おしよがつも

かんけいなく

いつも

おしごとを している



おひさまは はたらきものだ

わたしもすこしは

みならって たくさん

おしごとを しよう

二〇〇八年五月二十三日